

目次

貴重書紹介 古今和歌集	P.1
趣味の読書 (学長 柳澤 慧二)	P.2-3
図書館からのお知らせ	P.4

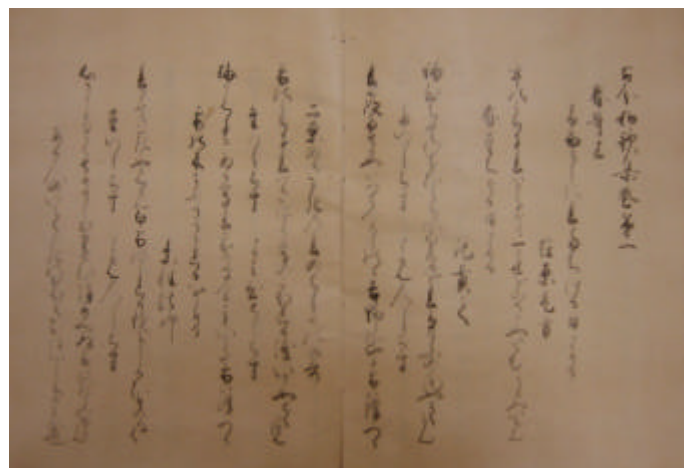
東園基量筆『古今和歌集』（鍋島家旧蔵）

今年は『古今和歌集』が作られてちょうど1100年 -異説もあります、それにちなんで催される特別展示のうちから、写本を1点紹介。最上級の古典籍とは言えませんが、大名家に伝わり、筆者と書写時期の特定可能な、品の良い書物です。

藍地に黄色の雷文・唐花を織りだした緞子表紙(縦25・0、横18・3糎)の列帖装2冊。表紙左肩に金泥下絵の絹地題簽(縦17・1、横3・8糎)を押し、「古今和歌集 上(下)」と墨書する。題簽には若干の痛みがあり、裏打ち補修済み。題簽の痛み方と表紙のそれとが一致せず、また外題の筆蹟と本文とは別なので、掲出本よりは古い古今集の題簽を再利用したものと考えられる。見返し、斐紙布目紙に金切り箔散らし。内題「古今和歌集巻第一」(巻首)。本文は毎半葉10行、和歌1首1行書、詞書2字下げ。天及び左右にゆったりと余白をとり、全巻1筆。厚手斐紙を用いた贅沢な写本である。墨付き上冊74丁、下冊77丁。遊紙首尾各1丁。小口3方に薄く金泥を引くのはやや珍しい。

下冊末に闊達な署名「権大納言藤原基量」、筆勢も文字の大きさも異なるが、本文と同筆。筆者藤原基量(1653~1710)は、園基任の次男基教を祖とする東園家の出身、家の業である神楽のほか有職故実に詳しく、当時第一人者の誉れが高かった。元禄10年(1697)8月権大納言となり、同12年(1699)7月これを辞しているため、権大納言在任時2年間の書写と判明する。他に奥書・識語等はないが、本文の特徴から貞応本系(二条家で使用した系統)と知られる。

上冊末に「鍋島文庫」(朱文)、下冊末に「鍋島直紹」(白文)の印。佐賀鍋島藩の支藩で、肥前鹿島2万石を領した鹿島鍋島家の旧蔵。子爵鍋島直紹(ナベシマ ナオツグ、1912~1981)は、政治家として著名であり、衆議院議員・科学技術庁長官等をつとめた。



春上冒頭部

趣味の読書

学長 柳澤 慧二

60歳の半ばを過ぎて、人生の残り時間を考えなければならない年になってしまって、あらためて趣味について考える。世の中には多趣味の人もあるし、その趣味においても私の年になれば、それ相応のレベル（たとえば碁、将棋の有段者、ゴルフのシングルプレイヤー）になっているだろう。私にはそんなものが全くないことに自分自身でもあきれている。あえて趣味というと読書ということになるが、職業柄専門的なものを読むことは趣味にならない。ということで、読書といえどもそんなに真面目なものではなくて、読んでも読まなくてもいい、気晴らしである。

少年時代は戦後の混乱期で、本を手に入れることもままならないため、手近にあるものを背伸びして読んでいた。そのまま大人になったため、本を読む割には自分で買うことはあまりせず、かといって図書館の利用もそれほどしなかった（もちろん、専門の書物、資料では図書館のお世話になったが、これはここでいう読書にならない）。というわけで、このような場所で読書論を展開することは出来ない。ただ息抜きの読書について、思いつくことを述べてみよう。

鶴見大学に就職して6年半ばかり、女子学生寮の隣にある教職員宿舎にいた。どちらの建物も今は建て直されていて、当時の面影はないが、場所は同じところにある。普段は朝夕歩いて通勤していたので、この間あまり読書をしなかった。子育てに忙しかったのは表向きの理由で、私の読書の場所が通学、通勤の電車の中ということが身についていたのが、本当の理由だろう。

いろいろな事情から、千葉県津田沼に居を移してもう四半世紀になる。津田沼はJRの電車庫があるため始発電が多く、当然終点の電車も多くて、距離の割には電車の便に恵まれている。ことに通い始めたころは、総武線快速は品川 津田沼間のみを走っていたので、座れるのはもちろん、ゆれの少ない車両の中央の窓際に座れて、読書には好都合であった。そのうちに、横須賀線とつながり、千葉より先まで行くようになってかえって不便になったが、代わりにグリーン車が連結されるようになり、お金と引き換えに楽が出来るようになった。

通勤電車で座っていることは、私にとっては図書館の席をもらったようなものであった。カバンの中に数冊の本を入れておけば、気の向くままに読書にふけることが出来る。電車の中の読書だからどんどん読み飛ばすだけでメモをとることはしない。次々と読むだけであまり記憶にも残らない。そんなわけで内容について論じることは出来ない。思いつくままにあげれば、夏目漱石や寺田寅彦の全集はあちこち読んだ。司馬遼太郎の「坂の上の雲」「胡蝶の夢」「菜の花の沖」や、吉川英治「新書太閤記」「新平家物語」などは夢中になると電車から降りるのが残念だった。藤沢周平、池波正太郎の時代小説の数々も楽しんだ。最近、大学の運営にかかわるようになって、片道は新聞を読むことが多くなり、帰りは疲れているのでボーツとしている時間が長くなった。だんだん眼が遠くなったこともあるのかもしれない。そんな中、種々の大学論と並んで宮部みゆきの本がカバンの中にある。

(ヤナギサワ ケイジ)



図書館からのお知らせ

図書館のサービスについてのガイダンス

2種類の利用ガイダンスを、皆さんの希望の日時に実施します。ゼミや友達同士で、カウンターに備え付けの「図書館利用講習会申込書」でお申込ください。

- 1) 図書館利用ガイダンス：見学、蔵書検索など全般（所要時間 60分）
 - a) 図書館の仕組み：図書館で提供するサービスの概要、図書館ホームページの紹介
 - b) 本の探し方：OPACの使い方、本の並び方、分類の仕組み
 - c) 館内の案内：実地説明、普段は入れない貴重書庫などの案内新入生は授業時間中に実施します。
- 2) 文献調査ガイダンス：蔵書検索、データベース、インターネット（所要時間 60分）
 - a) データベースを使った文献の探し方
 - b) レポートや論文のまとめ方の案内図書館利用の上級コースです。レポート作成や卒論に対応しています。

大学院生による「学習アドバイザー」制度

図書館では、本や雑誌論文の探し方の指導や、それらの資料の入手に関する支援を行うレファレンスサービスを提供していますが、「学習アドバイザー」は、学生の皆さんに対して、特定テーマに関する本や雑誌論文の紹介、レポートのまとめ方、さらに、学習方法の指導など、学習に関する全般的な助言・指導をおこないます。「学習アドバイザー」は、学生の皆さんにとっては学習支援サービスの選択肢が増えたこととなります。気軽にご相談ください。

アドバイザーの席は、図書館1階インターネットコーナー前です。文学研究科、歯学研究科の大学院生が、日本文学、英米文学、文化財学、歯学の各領域について、週に一度、半日間、相談を受け付けます。日程は館内の掲示をご覧ください。

館内におけるノートパソコンとインターネット接続機器の貸出

- ・ワード、エクセルの使えるノートパソコン4台の貸出(印刷はA4サイズのみ)
 - ・自分のノートパソコンへのインターネット接続機器10台の貸出
- カウンターで申し込んで下さい。その際、図書館利用カードをご持参ください。

複写図書館内のセルフコピー機の利用について

著作権法第31条に違反しない、以下の条件をすべて満たす場合のみ複写ができます。

- a) 図書館資料の複写
- b) 資料の半分以下の複写
- c) 一人につき一部の複写
- d) 調査・研究目的の複写
- e) 雑誌の場合は最新号以外の複写

返却期限を過ぎた場合の処置

返却期限日は、本の表紙の裏に張ってある「返却期限票」の日付です。

返却期限を過ぎた場合は、図書館カウンター前に学科、学年、利用者ID、氏名、返却期限日、延滞冊数を記載した「督促リスト」を掲示します。それでも返却されない場合は、ご自宅宛てに葉書と電話による督促が行われます。以上の2点をご承知おき下さい。

アゴラ - 鶴見大学図書館報 - 第115号 2005年4月1日発行 編集・発行 鶴見大学図書館
〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3 Tel:045-580-8274 Fax:045-584-8197
鶴見大学図書館ホームページ <http://library.tsurumi-u.ac.jp/library/>